

情報処理安全確保支援士特定講習 講習情報

グローバルセキュリティエキスパート株式会社

Micro Hardening : Enterprise Edition (マイクロハードニング : エンタープライズエディション)

実施機関名	グローバルセキュリティエキスパート株式会社		
講習名	Micro Hardening : Enterprise Edition (マイクロハードニング : エンタープライズエディション)		
特定講習番号	22-011-035		
講習形態	リモート形式	定員 (1回あたり)	20名
受講日数	1日間	受講時間	7時間
受講料	132,000 (円/税込み)		

対象分野 <ITSS+ (セキュリティ領域) >	主な分野	セキュリティ監視・運用	関連分野	脆弱性診断・ペネトレーションテスト
講習内容	受講者は4人～6人のチームに分かれ、各チームに与えられたECサイトをさまざまな攻撃から守る、サイバー攻撃対応演習です。ただ、攻撃を防ぐだけでなく、ECサイトの損失を最小限に抑え、早急に対応を行う必要があるため、「いまサイトに何が起きているのか見極める目」、「事象を把握するための知識」、「攻撃に対処するための技術」、「ECサイトのサービスを止めない運用力」等の総合力が求められます。1回の演習ですべてを実現することができないため、本コースでは、その演習を4回繰り返し、各回ごとに振り返りを行い、「何を見落としたか?」、「自分の取った行動や対策が有効だったか?」等、さまざまな角度から確認検証を行うことにより、サイバー攻撃の対応能力向上を目指します。			
具体的な到達目標	・ビジネス (事業継続) を意識したインシデント対応を行うことができる。 -迅速なインシデント対応を行うための必要な準備ができる。 -インシデントの早期検知の重要性を理解し、監視や検知について提案できる。 -インシデントの状況を把握するために、ログを解析することができる。 -インシデント対応における事業影響を考えながら、適切な暫定対応を提案できる。			
修得できるスキル	・インシデントの発見 (検知) ・初動対応、指示、報告 ・問題個所の特定、隔離、ログ解析、被害状況の確認、フォレンジック			
講習の理解・習得のために推奨される実務経験	サイバー攻撃に関する一般的な知識をお持ちの方。また、サーバやネットワーク等のシステム運用経験があると望ましい。			
講習の理解・習得のために推奨される知識・技術	本演習はLinuxサーバにログインして演習を行うため、基本的なLinuxのコマンド入力スキルがあると望ましい。(必要なコマンドについては配布資料に記載)			
技術・知識の到達度の把握・測定方法	以下を確認することで、到達目標に対する技術・知識の到達度の把握を行う。 ・演習対象システムのスコア (インシデント対応状況に基づいてスコアが表示される) ・グループ内での演習状況 (講師が各グループ内を巡回し確認) ・受講者からの質問状況 (講師への直接質問やSlackに投稿される質問内容を確認)			
修了認定の判断基準	以下の項目の内容を総合的に判断し、修了を判定する。 ・出席率 (75%以上) ・演習対象システムのスコア (改善が見られたかどうか等) ・演習状況 (積極的に演習に参加していたか等)、質問状況 (質問内容での評価)			
修了認定基準に満たない受講者への措置	修了認定基準に満たない方に対しては、その旨を通知し、認定を行わない。(再度の受講は認める)			
受講者に対するサポート体制	講師がブレイクアウトルームを巡回、またSlackでも適宜支援や現在のスコアなどを共有します。リモート開催のため、回線などのトラブルについてはGSX事務局のサポーターが問い合わせ窓口となる。			
講習実施施設所在地	東京都港区海岸			
ホームページ	https://www.gsx.co.jp/academy/microhardening.html			